

【はじめに】

みなさんこんにちは。芸術文化学科の大木泉水です。日本でもイタリアでも、毎日厳しい暑さが続く 7 月となりました。私のボローニャ大学への留学生活は、7 月 16 日に無事終えることができました。そのため 7 月は半月分しかありませんが、最後に悔いのないようにととても濃い毎日を過ごすことができたので、以下に綴ります。

【生活】

帰国まで余裕をもって過ごすために、7 月に入ってからゆっくりと身の回りの整理をして、今だからこそでできること、行ける場所、食べられるものをピックアップして、最後にどう過ごしたいかを考えました。これまでお世話になった友人やルームメイトに挨拶をすること、イタリアで一番好きなフィレンツェに行くこと、イタリア料理を食べること、を 7 月に全うしました。この一年間で、美食の街ボローニャで美味しい食べ物をたくさん食べてきたので、最後に食べておきたいものがたくさんあって少し大変でした。トルテリーニやトルテローニ、タリアテッレなどの種類が豊富なパスタ、小麦とモッツァレラチーズが香ばしいピザ、モルタデッラのパニーニや、バールのエスプレッソやカプチーノ、ジェラートもたくさん食べました。7 月いっぱい家で出るルームメイトが私の他にもいたので、みんなでラザニアを作って食べたり、イタリア式の朝食を食べるためにみんなで早起きしてバールに行ったりもしました。誰かと一緒に食事をする楽しみは元々日本でも感じていましたが、誰かと一緒に食事をすることを大事にするイタリアの文化を経験してから、より食事の幸せを感じるようになりました。日本是个食や孤食が日常の食事になってしまっていますが、食事が生きるための手段としてだけでなく、人と時間を共有するためのもっと温かな目的を持っています。

他のルームメイトが帰省してしまう前日に、ルームメイトのために日本の料理を振る舞いました。イタリア人は、日本食というと、「Sushi! Ramen! Tempura!」くらいしか答えられません。しかも、寿司やラーメンなど、大抵の日本人は家で作れないものばかりですが、彼らはそれをホームメイドだと思っているので説明するのに毎回苦労します。今回は、肉じゃが、豚の角煮、お好み焼きを 6 人前作りました。日本の調味料を使った味付けや、料理の特徴をイタリア語で説明しながらみんなで食事をして、とても喜んで食べてくれたのでこちらもとても嬉しくなりました。最後に日本のことを少しでも知ってもらう機会ができたので良かったです。

【観光】

イタリアを出る前に行っておきたかった、パドヴァとピサ・フィレンツェに行きました。パドヴァは、イタリア人の友達が住んでいるので、美味しいものを紹介してもらった

り、ショッピングをしたりしましたが、最中ずっと話が止まらなくて、間違っていたとしても一日中イタリア語を使うことができて、成長を感じました。いつかイタリアの友達に日本に来てもらいたいです。最後の週にはピサとフィレンツェに行きましたが、気温が38度近くあって観光どころじゃありませんでした。ピサは初めて行きましたが、斜塔が傾いているのを確認してすぐにフィレンツェに戻りました。フィレンツェは、私がイタリアに留学したいと思わせるきっかけになった都市です。素晴らしい芸術が今も溢れ、由緒ある街並みが朽ちない様子に都市の強さと美しさを感じます。またいつか戻ってきたいです。



左上：見慣れた私の教室
中上：夏夜マッジョーレ広場
右上：見慣れた家の前の道
左：フィレンツェ中心
右：振る舞った日本食



【さいごに】

無事にイタリア生活を終え、後悔なく清々しい気持ちで帰国することができました。応援してくれたみなさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。この素晴らしい経験をどこにぶつけていこうかと考えているところです。イタリアで感じた、イタリア人が持つ人生に対する考え方が私の人生にも通用しますように…Grazie mille di avermi letta, Arrivederci!